



三條北ロータリークラブ週報

自分を越えた眼を

Look Beyond Yourself

国際ロータリー会長 ラジェンドラ.K. サブー 第2560地区ガバナー 橋本 カ

例会日

1992. 4 . 21

累計 No 266

当年 No 41

会長／山上茂夫

幹事／堀川正幸

SAA／味方義一

例会日／火曜日 PM12:30～1:30

例会場／三條ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局／三條市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行事： 新会員卓話「人とのめぐり合い」長谷川恵慈君

出席： 本日の出席 55名中38名

先週の出席率 55名中46名 83.64%

先週のメイクアップ： 3月24日 RI会長日本公式訪問参加 山上茂夫君

4月15日 三條RCへ 芦田義重君 江口 悟君 笹原勝治君

4月16日 ローマRCへ 中条耕二君 高橋彰雄君

4月17日 燕RCへ 長谷川博一君

4月17日 吉田RCへ 米山忠俊君 大野新吉君 小林 満君

4月20日 三條南RCへ 吉川吉彦君 加藤 実君

ビジター： 三條RCより 小越憲泰君 堀川政雄君

三條南RCより 伊藤不二男君 吉田秀治君

会長挨拶： 山上茂夫

本日は三條クラブから小越さん、堀川さん、南クラブから吉田さん、伊藤さんお越しあたたかき
して有難うございます。前の席が空いておりましてお客様もいらっしゃいませんので一寸淋しい気
が致します。

先週は私と幹事が燕三條ワシントンホテルへ加藤さんの関係でオープンの御披露にお招きを戴き
二人で出席して参りました。そこで前会長の今井先生にお願い致しまして大変立派な例会を持って
戴いた相であらためて御礼申し上げます。

先週私と幹事は例会欠席を致しましたが、そのあと私は16日夜また、同じワシントンホテルで別
の会社の祝賀会にお招きをいただき、更にその翌日結婚式で北海道へ行って参りました。

結婚式から一昨日^{おととい}帰って参りまして、ライオンズクラブの老人福祉を考えると云う集いに、御挨拶
旁々参加して参りました。どこのクラブもいろんな社会奉仕をしているんだなあと思いました。
その中で大倉修吾さんの講演がありました。お年寄りを大切に、またお年寄りがどうしたら楽しく

る訳です。1回に課長を含め、10名位でするんですが、それが盛り上がり、課内は大騒ぎです。積算
と言うのは図面にとらめっこの世界ですから暗いんです。また、間違えないようにと、緊張して
いますのでこれが楽しみでした。積算は今はコンピューターでやりますが、その当時は拾い出し、
原稿を計算機で計算し、材料別に分け集計するんですが、原稿の重量と集計表の重量が合わないん
です。合わないとはB5版で百枚位ある原稿と集計表を再度やり直します。1千トン位ある建物で、
10トン程度なら重量を多くして置けばいいではないですかと、言った事がありました。長谷川さん
は、対外的にはいいかもしれないが、重量が多ければ仕事は貰えないし、少なければ損をする。そ
んな事より我々が出した重量を元にして会社は、工場原価や実行予算を作るのだから安易な気持ち
では困ると、叱られました。そんな毎日の繰り返しで積算のイロハをお知えられました。

私の趣味の一つにスキーがありますが、本格的にスキーを始めたのがこの頃です。東京の人達
は、新潟というと、皆スキーが上手だと思っていて、よく誘われました。私も学生の時やっていま
したし、少しは自信があったものですから、さっそうとゲレンデに、ところが長谷川さん達の足元
にも及びません。最後にはお前のはスキーではない、とまで言われました。それから毎週のように石
打の山荘で長谷川さんの特訓が始まりました。翌シーズンには特訓の甲斐がありまして、巴組の名
門粉雪の会に入会が許されました。そして、憧れの八方尾根スキー場での合宿に参加しました。こ
れは2月11日前後の土、日と、有休を利用して、四泊五日の日程で行なわれます。合宿と言っ
ても競技スキーではありませんが、長谷川さんがリーダーですから地獄の合宿になる訳です。朝は
6時30分起床、7時朝食、7時30分出発、8時にはゲレンデに立っています。11時30分から13時ま
での昼食、ビールは少し飲みますが、休憩なしで16時50分の最終ゴンドラに乗ります。パトロール
に叱られながら暗闇の中を滑って一日が終わりです。宿に着くと6時近くあたりは真暗です。宿で
は、室割りにはアミダグジ、お風呂の順番はジャンケン、買い出しはサイコロと決めていきます。こ
の会の素晴らしいのは必ず全員で行動するという事です。コースを決めると下手な人を先に、上
手な人が全員を見ながら滑ります。集合地点では必ず全員がそろうまで次の行動をとらずに待つて
います。ですから広い八方でも我々は、はぐれたことが一度もありません。今では新潟支部として
5、6名で毎年参加しております。年をとると共に滑る量よりビールの方が増えています。

そんな東京の生活も、親父の交通事故で終止符を打ち、昭和50年に三條に帰ってまいりました。
振り返れば25年間に色々な人とめぐり合い、色々お知えていただき、大人にさせていただきました。

ロータリークラブに入会させていただきまして、まだ知らない方々とのつき合いが、これから数
多くあると思いますが、本当に楽しみです。

こんな私ですが、宣しくお願い致します。

4月28日例会： クラブアッセンブリー 次年度会長エレクトセミナー

5月12日例会： 私とロータリー 本間茂男前幹事

余生を過せるか？を若い人達の接し方などで例えて話されておりました。大変為になるお話でした。その様な訳で花の季節に今年もお花見が出来なくて残念に思っております。今日はこの席も従来と変りまして4名の席をしつらえてございます。と云うのもいよいよ次の年度の高橋会長エレクトが、そろそろ次年度の公式行事に参加することが多くなります。

ほかのクラブは会長、副会長、幹事と云うことで、エレクトも副会長として、会長と一緒に並んでいる事が多く見受けられます。今までこの会場が手狭のせいかと思っておりましたが、これは大変な誤まりであったなと思いました。矢張りエレクトから傍に居て貰った方が、次年度の行事についてもよく理解できますし、私も安心ですので私の独断と偏見によりましてこの様に変更させて戴きましたので皆さんから御承認をいただきたいと思います。

それから花の季節と申しますと4月23日から25日にかけては、私は山口県下関市にいましたがここでは安徳天皇をしのぶ先帝祭と云うのがございます。下関では平家の落人達が辿った人生を偲んでいろんな行事が行なわれます。

結婚式などでおむこさん、お嫁さんを迎えにあがるときにむかえじょうと云うことがある相です。先日ある方の結婚式におよばれしているので伺ったときどう云う字を書くのか？ときかれた事があります。

これは平家の落人が……（関門海峡では潮の満ち干、即ち干満の差が5～6m位あります。その為に源平台戦で平家が敗れるのですが）そのとき平家の武者達が次々と海中に沈んで行った、そのあとに残された女官達が地元で生活するために次々と身を落として行ったことで下関ではお上臈さんと呼ばれていますが、その人達が身を落し乍ら生活して、安徳天皇（幼帝で8才で入水した）が入水されたあとも徳を偲んで毎年供養を怠らなかったことから、今に引き継がれ伝わっている訳です。

耳なし法市など平家にまつわるお話は下関には沢山ありますが、その様な幼帝を二位の尼が腕に抱きながら海に身を投げたという事を春の季節ではありますが、フッと私の気持ちを悲しくよぎるものがございます。

また戦時中は桜と散ると云う言葉の様に、先輩が特攻隊としてちったと云うこともあり、お花見はキレイさと裏腹に何か悲しくもある様な気が致します。

今日はニコニコBOXの使い道で実行委員から具体的な内容の報告があり、出席委員会からもお話がある様ですのでこの辺で、御挨拶に代えさせていただきます。どうも有難うございました。

幹 事 報 告：堀川幹事

◇見附RC例会変更

日 時 4月25日（土）18:30～

会 場 つるの湯 夜桜例会

◇地区青少年交換委員会よりドイツ交換留学生（Bグループ）の申請コピーが参りました。

たしか、その中の一人に「なしや」のお兄ちゃんがいらっしゃったようです。現在もその時の経験を生かして、風見鳥よろしく、世間を渡り歩いています。

昭和36年に、親父が本家から独立して、現在の前身である、長谷由工業を設立し、鉄骨屋を始めました。鉄骨と言っても、物干台や手摺、階段等、鉄を加工し、溶接する物なら何でもやっていました。よくサビ止メペンキ塗りを手伝いました。そのころから親父の仕事は、次ぐものだと思っていましたので、自分の将来を何にも考えずに、中学、高校と、クラブ活動ばかりで、勉強はやりませんでした。ところが、親父の仕事もだんだん建築の仕事が増えてきて、図面とにらめっこして苦労している姿を、よく目にするようになりました。これは建築の勉強をしなければいけないと思い、先生に「オレ、上の学校へ行きます。」と、簡単に言うと、先生も「お前の行ける建築の学校なんかない、それに、うちは三工是三工でも三条工業だぞ」と、一言でした。それでも諦めずにお願ひ、建築の専門学校、中央工学校を紹介してもらいました。紹介してもらっても行ける訳じゃなし、学校推薦など、とんでもありませんでした。それで、私の受験勉強が始まりました。先生も週に2、3日は、放課後勉強を見てくださり、私も一応受験生らしくなりました。しかし冬休みも終り、時間がありません。親父に、中央工学校に行こうと思うがどうもだめらしいと話しました。親父は、やるだけやれば、だめでもともと、とにかく最後まで、ガンバレ。そして受験し、合格通知が届きました。入学し、事務長から学校の厳しさを、こんこんと聞かされました。ちなみに成績は、下の中位だったそうです。まあ、色々ありましたがなんとか東京の学校の学生になりました。この頃の事が、それからの私の人生に非常に、勉強になり、よい経験にもなりました。こんな状況で入学したものですから、学生生活を楽しむ余裕はなく、毎日学校と下宿を脇目もせず、往復し、受験勉強の続きがまた、始まりました。晩生型の長谷川は、この頃から目が出始めました。2年の進級試験では、クラスの、ベストテンに、顔を出す位になりました。2年になりましたら、120名～130名いた仲間が、100名位になっていました。事務長の話も、まんざら嘘でもなかったと、感じました。皆なにやっと追いついたこの時期にようやく本領を発揮して、部活やサイクル活動にと、学生生活を楽しみ初めました。この時知り合った、女の子の一人が、今の女房です。

昭和47年は、日本の経済も昇り調子で建設業業界も人手で不足で、就職は苦労せず、大手の鉄骨加工メーカーの巴組鉄工所に入社しました。面接の時に、会社側から家が鉄骨屋で長男となると工場の仕事か現場で全国どこでも行ってもらおうと言われましたので、覚悟はしていましたが、2ヶ月の研修期間の末、配属されました所が、業務部積算課でした。仕事の内容は鉄骨の重量計算や見積り、そして工場原価計算でした。私には願ったり叶ったりの職場でした。積算課には、10才年上の先輩がおりまして、この人も長谷川という方でした。私が社会に出てから影響を受け、色々お知恵をいただいた人です。長谷川さんは物事を何んでも楽しく、しかも徹底してやろうという人でした。3時の休み時間には、皆さんもお茶やコーヒー等を飲みますが、単にお金を出して飲んでも面白くないと、お金を出す人、買いに行く人、只で飲む人をサイコロで、チンチャリンよろしく決め